

科目名称：	保育内容「環境」の指導法	
担当者名：	村上 知子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
具体的な保育を想定した指導案を立案し、模擬保育を行ない、その振り返りを通して、乳幼児が望ましい体験ができるための援助や保育を構想する力（PDCAサイクル）を身につけることができる。		
授業の達成目標・到達目標		
<p>(1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育要領の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。</p> <p>1) 幼稚園教育要領の基本と領域「環境」のねらい及び内容を理解する。2) 領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、乳幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。3) 幼稚園教育要領における評価について理解している。4) 周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする経験と小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2) 乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「環境」の具体的な保育場面を想定した保育行い保育を構成する力や指導方法を身につける。</p> <p>1) 乳幼児の心情や発達を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。2) 領域「環境」の特性と乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材活用の必要性を理解し、保育を構想し活用することができる。3) 指導案の意義を理解し、保育を構想し作成することができる。4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善し、新たに構想することができる。(PDCA) 5) 障害のある乳幼児にとっての領域「環境」の保育を構想することができる。</p>		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	○
DP(3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身につけている。	

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)		50	30	20	100
幼児教育DP(3)					0
幼児教育DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》保育士	《経験年数1》8ヶ月
	《内容2》幼稚園教諭	《経験年数2》20年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
知識	講義で学んだ知識を組み合わせ、それを活かして積極的に講義に参加できる	講義で学んだ知識を組み合わせ、それを活かして講義に参加できる	講義で学んだ知識を組み合わせ、考えることができる	講義で学んで知識を組み合わせ、考えることができず、専門性が乏しい
環境についての理解と発表	身の回りの環境や保育の環境に自分の意見を持ち、それをまとめて発表することができる	身の回りの環境や保育の環境に自分の意見を持ち、発表することができる	身の回りの環境や保育の環境について、発表することができるが、自分の意見を述べることができない	身の回りの環境や保育の環境について、自分の意見を持たず、発表することもできない
学びへの積極性	話を聞く態度が良く、質問や意見などを、毎回1回以上述べるができる	話を聞く態度が良く、質問や意見などを、時々述べることができる	話を聞き態度が良い。質問されたことは答えることができる	発表や意見を言うことができず、私語や居眠り等をしている
課題	課題に積極的に取り組み、求められる内容以上の課題を期日までに提出することができる。	課題に積極的に取り組み、求められる内容の課題を期日までに提出することができる。	求められる内容の課題を期日までに提出することができる。	課題を期限までに提出できず、内容も不十分である。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 幼児教育の基本と領域「環境」－教育・保育における領域「環境」のねらいと内容	幼稚園教育要領の「環境」にかかわる箇所を読んでおく	40分
第2回 子どもの育ちと領域「環境」(ICTの活用)－子どもの発達の違いによる環境構成の実際	年齢に応じた環境構成についてレポートにまとめておく	30分
第3回 自然に親しみ、植物に親しむ保育の実際(計画立案)－指導計画立案[野菜(ジャガイモ等)の栽培]	野菜の栽培の指導計画をたてておく	50分
第4回 自然に親しみ、植物に親しむ保育の実際(栽培の実践)－[野菜(ジャガイモ等)の栽培の実際]	野菜の栽培方法について、詳しく調べておく	30分
第5回 子どもを取り巻く人的環境－園内での人的な関わりの活動の事例から	教科書第4章「子どもを取り巻く人的環境」を読み、意見をレポートにまとめておく	30分
第6回 標識・文字等に関わる保育の実際－遊びの中で標識・文字、情報に触れる活動の事例から	教科書第5章5節「文字・標識に対する感覚」を読み、意見をレポートにまとめておく	30分
第7回 数量・図形等に関わる保育の実際－遊びの中で数量・図形への関心を深める活動の事例から	教科書第5章4節「数量や図形」を読み、意見をレポートにまとめておく	30分
第8回 生活に関係のある情報や文化に親しむ保育の実際－遊びの中で身近な情報・日本文化や異文化に親しむ活動の事例から	教科書第10章「子どもと多文化」を読み、意見をレポートにまとめておく	30分
第9回 園外保育での安全に遊ぶ環境作り(計画立案)－指導計画立案[園外保育での子どもの安全を守る保育環境]	園外保育に行くことを想定し、指導案をたてておく	50分
第10回 園外保育での安全意識・安全指導(模擬保育)－模擬保育[園外保育での安全指導]	模擬保育ができるように、指導案をもとに準備しておく	30分
第11回 園外保育での安全意識・安全指導(振り返り)－実践の省察、改善(模擬保育後の振り返りと改善)	自分の模擬保育について、模擬保育シートに振り返りと改善を書いておく	30分
第12回 生き物に関わる保育の実際－虫や動植物の飼育活動の事例から	配布された飼育活動の事例を読み、意見をレポートにまとめておく	30分
第13回 自然に親しみ、植物に親しむ保育の実際(収穫の実践)－模擬保育[野菜(ジャガイモ等)の収穫の実際]	野菜を収穫するため方法について、詳しく調べておく	30分
第14回 自然に親しみ、植物に親しむ保育の振り返り－実践の省察、改善(栽培・収穫の振り返りと改善)	野菜の栽培・収穫についてをまとめ、プレゼンテーションできるように準備しておく	50分
第15回 環境に関わる現代的課題(ICTの活用)－ユニバーサルデザイン、インクルーシブ保育	教科書第10章「気になる子どもと環境」の1節と2節を読み、自分の意見をまとめておく	30分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
小テスト(50%)、提出課題(30%)、授業への積極的関与(20%)

課題に対するフィードバック

授業内プリントはルーブリック等で評価し返却する

教科書・参考書

教科書：「保育内容「環境」」(酒井幸子他 編著 萌文書林)
参考書：「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」